研究論文

児童の自己記述における性格語彙の使用に関する考察
―性格特性のビッグファイブとの関連に着目して―

成家　雅史*

A study on the use of personality vocabulary in children's self-descriptions
―Focusing on the relationship with the Big Five personality traits―

Masashi NARIYA*

【要旨】
本研究の目的は，小学 4 年生と 6 年生を対象にして，児童が自己を記述した文章（「自己記述」とする）において使用された性格語彙に関しての実態を明らかにすることである。性格語彙の使用実態を明らかにすることによって，書くことの学習指導と関連した語彙指導の在り方を検討する。研究の方法として，教科書巻末にある「言葉の宝箱」に掲載されている「人物を表す言葉」を中心として，その使用実態を調査した。また，語句の種類については，性格特性のビックファイブを参考にした。分析の結果，語句の種類について，「よく使用される語句」と「あまり使用がない・使用がない語句」に偏りがあり，その要因として配当学年の使用実態が下学年の語句を使用する傾向にあることが明らかになった。4 年生と 6 年生の使用実態を性格特性のビッグファイブとの関連で比較すると，使用回数が 5 回以上の語句に関しては，4 年生は 3 分類にとどまり 6 年生は 5 分類であったことから，6 年生は 4 年生と比較して多様な語句の種類を使用している実態が明らかになった。また，負の因子をもつ語句の使用も 6 年生が多く，発達段階によって自己反省性が高まる傾向にあることが明らかになった。書くことの学習指導と関連した語彙指導の在り方として，自己記述の学習過程において，語彙指導の「取り上げ」指導と「取り立て」指導を往還する工夫をして，語彙学習力を高める指導法を検討していきたい。

キーワード：自己記述，性格語彙，書くこと，語彙指導，性格特性のビッグファイブ

1.　問題の所在
1-1　語彙指導と書くことの学習指導の関連

国語科教育にとって，児童の語彙を豊かにすること，語彙指導が取りも直さず重要なことは本稿で述べるまでもないことである。それ故なのか，小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説国語編（以下，学習指導要領とする）では，語彙指導が学習内容の改善・充実の筆頭に位置付いている。ただ，この背景には，「小学校低学年の学力差の大きな背景に語彙の量と質の違いがある」（p. 8）というように，小学校入学前からの児童を取り巻く言語環境の影響も一つの要因として考えられていることと，語彙と学力が関連すること故に，国語科教育での語彙指導が重要性を増しているといえる。しかし，谷口（1982）

＊　なりや　まさし　相模女子大学学芸学部子ども教育学科

が「語句・語彙は自然習得によるものが多く，国語の教室や国語の時間のみで養うことはできない」と述べているように，児童の語句・語彙の問題に関して，国語科の授業だけ解決できるわけではない。

語彙には，理解語彙と使用語彙がある。理解語彙について，安達（2018）は「個人に属する語彙について，聞いたり読んだりしてわかる語彙」，谷口は「個人の理解できる語の総体量」と定義する。使用語彙について，安達は「個人の総語彙量のうちで，話すこと書くことにおいて使う，使える語彙」，谷口は「知っている語のなかから話したり書いたりするときに駆使することのできる語の総体」，または，「作文指導と深く関わるのは表現語彙」と述べる。大内（2019）は，語彙の深い学びとして，「理解語彙が拡充し，使用語彙，表現語彙として昇華していく国語単元学習の創造」（p. 1）の必要性を述べる。学習指導要領における語彙指導の改善・充実についても，思考・判断し表現することを通じて語彙を豊かにすることを目指している。言い換えれば，児童が表現することの場面において，語彙をどのように使うかということを考えたり判断したりすることが，語彙を豊かにするということになる。さらに，谷口が「小学校上学年から中学校全学年を通して，文章表現力を伸ばすには，表現語彙を豊かにすることが基礎的に大切なこと」と述べていたり，中学生の作文と学力テストの点数と語彙の関連性を分析した鈴木（2020）が学力の上位層と下位層では，共通課題の作文における語数に大幅な差異が生じていると論じたりしているように，語彙指導と書くことの学習指導は緊密性が高いといえる。

1-2. 性格語彙に着目する背景

性格語彙という用語は，筆者が性格特性に関する語彙を省略したものである。性格特性に関する語彙は，柏木ら（2005）が性格特性のビッグファイブの研究において「辞書から多数収集し分類整理する心理辞書的方法」（p. 368）で用いられる用語である。性格特性のビッグファイブについては後述する。本稿においては，光村図書出版（以下，光村とする）の小学校国語科教科書に掲載されている「人物を表す言葉」と「人物を表す言葉」以外が対象となる。性格特性に関する語彙は，青木（1971）では「性格表現用語」であったり，青木（1974）では「人物表現用語」であったり，柏木ら（1993）は形容詞によるものを「性格評定用語」といったりと様々な言い方がある。本稿では，性格特性に関する語彙と考え方が近いため，性格語彙として論じていく。

国語科教育では，先述の通り，語彙指導の改善と充実を図るために，学習指導要領〔知識及び技能〕(1)オ「語彙」が位置付いた。そのため，教科書には，巻末に語彙に関する資料が加わり，光村は「言葉の宝箱」[1]として提示している。近年，国語科の授業を参観すると，この「言葉の宝箱」を意識または関連した授業づくりを目にするようになった。学習指導要領には，第 3 学年及び第 4 学年においては，「性格を表す語句の量を増」すことが指導事項として明示されている。井上（2018）は，性格を表す語句に対して，「行動癖，態度，性格，人柄，あるいはその人への思いを批判的に捉えて，言い表した一群の語のまとまり」（p. 17）を対人評価語彙と称し，対人評価語彙に注視することで，「人間関係やコミュニケーション活動の課題の一端を具体的に認識・把握することにつながる。深刻な課題である「いじめ」問題とも絡んでくる」（p. 17）と論じる。一方で，井上は「若者ことばの対人評価語彙は，ネガティブ評価の語が大半であり，客観的な基準に照らして語を運用するのではなく，表現主体側の感情や見方に運用基準が移行している」や「キモイ・ キショイ〈言動が気持ち悪い〉，エグイ〈普通は言わないようなことも平気で言える人〉」（p. 17），と対人評価語彙の表現に課題があることを指摘している。さらに，ネットの中の対人評価語彙が，「陰キャ」や「陽キャ」というような外来語も使用されていて，「多様で，自由な造語がなされている」ことを認めながらも，若者ことば同様に「表現主体側に判断基準があり，ネガティブ評価の語の割合が非常に高い」と否定的な見方を示す（p. 17）。これらの対人評価語彙の現状は，若者だけでなく小学生にも影響し，人物を表現する語彙として日常生活で用いられていると推察できる。

以上，語彙の獲得が理解や表現に結び付き学力に関連すること，特に性格語彙に関しては人物を評価したり判断したりする際に影響を及ぼすことの可能性が考えられることから，本研究に取り組む意義を論じた。

2. 研究の目的

本研究の目的は，第 1 に，小学 4 年生と 6 年生を対象にして，児童が自己を記述した文章（「自己記述」とする）において使用された性格語彙に関して，性格を表す語句の種類について実態を明らかにすることである。そのために，性格特性のビッグファイブの 5 分類を参照して関連を明らかにする。第 2 に，使用実態を明らかにすることによって，使用語彙と

してどのような種類の性格語彙が使用されているのか分析することで，自己を書くことの学習指導における性格語彙の学習の在り方を検討することである。

3.　研究の方法

3-1.　実践の概要

筆者は，都内国立大学附属 A 小学校の 4 年生と 6 年生の各 3 学級を対象に「人物を表す言葉」を用いたアンケート結果を参考にして児童が自己を書く教育実践に取り組んだ。実践時期は，2024 年 6・7 月である。実践については，A 小学校の 4 年生と 6 年生を担当する教諭 2 名と協力して行った。2 名には，事前に主旨を説明し，筆者の授業を参観したり視聴したりして実施した。表 1 は活動内容である。研究対象校では，光村の国語科教科書を採択しているため，教科書の巻末に掲載されている「言葉の宝箱」にある「人物を表す言葉」を用いる。なお，教科書は令和 6 年度から新しくなっているが，学習経験のある令和 2 年度版の「言葉の宝箱」を使用する。

活動 1 から活動 6 について，1 単位時間 45 分を途中 5 分程度の休憩を入れて 2 回分連続で実施した。活動 1 から活動 3 を 1 時間目で行い，活動 4 から活動 6 を 2 時間目で行った。4 年生と 6 年生は共通の学習活動である。児童には，「自分」を発見する学習として説明した。

表 1　実践における活動内容

活動1	とよたかずひこ（1983）『やっぱりぼくはとりなんだ』講談社（読み聞かせに使用したのは第3刷、1984年9月）を教師が読み聞かせする。
活動2	教師が絵本の中心人物「ぼく」はどんな鳥だったのかを質問し,児童が答える。
活動3	自分はどんな人間（人物）なのか。友達に「人物を表す語」アンケートを行う。
活動4	アンケートを基にして,自分を発見する学習ワークシートに記入する。（直接,活動5という選択も可）
活動5	自分がどんな人物かを説明する文章を書く。
活動6	自分がどんな人物か説明する文章を書いたことを振り返って感想を書く。

3-2.　活動 3「人物を表す語」アンケート

井上（2018）は，平成 29 年度時点の小学校国語科で使用されている教科書会社 5 社に出現する対人評価語彙の傾向性として「テキスト教材では，主に物語や伝記に出現する。また，読書案内や本の紹介にも散見する」（p. 18）という特徴を指摘する。したがって，児童が日常生活の中では使用しないような語も含まれている。そのため，2 年生下巻[2] から 6 年生までで 84 語ある「人物を表す語」について，授業実践の 1 週間前に A 小学校 4 年生 33 名を対象にして，Google Form を活用して，語句の意味理解を確かめた。4 件法のアンケートを実施し，「よく分かっている」「まあまあ分かっている」という回答が 80％以上の語を中心にして 55 語を選定した（表 2）。選定結果を元にして，筆者が「人物を表す言葉」アンケートを作成し児童に配布した（表 3）。

表 2　光村図書小学校国語教科書（令和 2 年度版）言葉の宝箱「人物を表す語」一覧と採用した語

個数	2年下	%	3年上	%	3年下	%	4年上	%	4年下	%	5年	%	6年	%
1	親切	93.9	陽気	84.9	すなお	97.0	ゆうかん	93.9	のんき	93.9	ごうかい	69.7	楽観的	57.6
2	やさしい	97.0	ほがらか	36.4	りこう	81.8	熱心	87.9	温和	66.6	まさる	36.4	悲観的	54.5
3	思いやりのある	97.0	がんばり屋	87.9	いさましい	69.7	たのもしい	94.0	気のいい	72.7	一、二を争う	60.6	積極的	72.7
4	しっかりもの	93.9	まじめ	93.9	いばる	97.0	あっさり	91.0	行動力のある	87.9	力量がある	48.5	消極的	60.6
5	がまん強い	87.9	のんびり	93.9	おくびょう	90.9	さっぱり	87.8	根気強い	78.8	才能がある	93.9	論理的	66.7
6	こわがり	94.0	おとなしい	97.0	心やさしい	93.9	つんとした	60.6	器用	84.9	いさぎよい	60.6	感情的	84.8
7	いじっぱり	57.6	負けずぎらい	97.0	感じがよい	75.7	気弱	66.7	用心深い	81.9	すがすがしい	66.7	熱意のある	84.8
8	おだやか	93.9	おこりっぽい	94.0	一生けんめい	97.0	短気	78.8	強がり	91.0	品がよい	81.8	率直	48.5
9	ひょうきん	42.4	活発	87.9	注意深い	96.9	いいかげん	94.0	生意気	94.0	評価が高い	96.9	まっすぐ	97.0
10					うっかり	94.0	おさない	90.9	ずうずうしい	84.9	堂々とした	94.0	もの静か	81.9
11											おおらか	57.6	誠実	57.6
12											おっとり	69.7	温かい	96.9
13											冷静	90.9	するどい	94.0
14											せっかち	84.9	気難しい	69.7
15											心配しょう	90.9	えんりょがち	75.7
16											がんこ	84.8	未熟	75.7
17											向こう見ず	48.5	一に明るい	54.6
18											しんちょう	93.9	一に強い	57.6
教科書計	9		9		10		10		10		18		18	
80%以上	7		8		8		7		7		9		6	
割合	0		0		1		0		1		1		0	
採用数	7		8		9		7		8		10		6	

※網掛けの語は不採用。四角囲みは筆者の誤りにより採用された語。

表 3 「人物を表す言葉」アンケート

2024 年　月　日

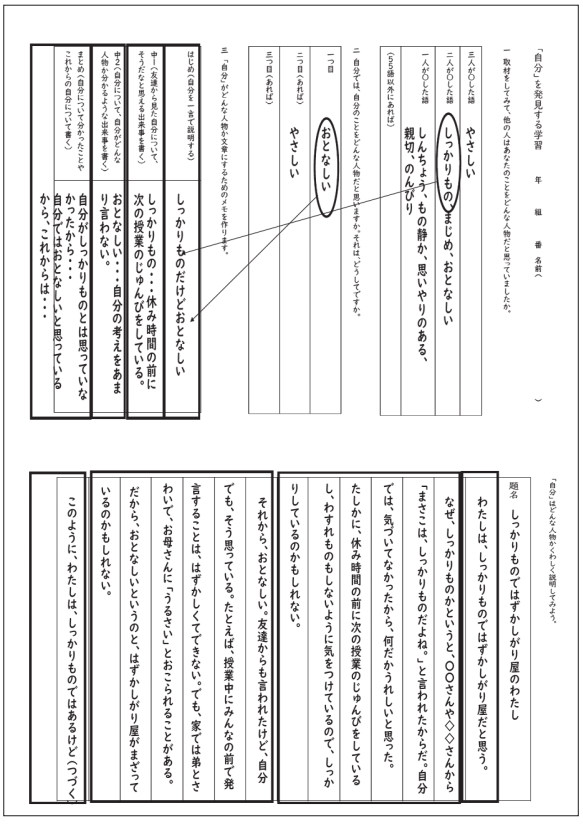
人物を表す語　取材メモ

下に、人物を表す語が 55 語あります。その中から（あなたの名前　　）の人物を表すのにふさわしい語を 5 語まで選んで、○をつけてあげてください。

番号	言葉	1人目	2人目	3人目
1	あっさり			
2	いいかげん			
3	いさぎよい			
4	いさましい			
5	うっかり			
6	おくびょう			
7	おこりっぽい			
8	おさない			
9	おだやか			
10	おとなしい			
11	がまん強さ			
12	がんこ			
13	がんばり屋			
14	こわがり			
15	さっぱり			
16	しっかりもの			
17	しんちょう			
18	ずうずうしい			
19	すなお			
20	するどい			
21	せっかち			
22	たのもしい			
23	のんき			
24	のんびり			
25	まじめ			
26	まっすぐ			
27	もの静か			
28	やさしい			
29	ゆうかん			
30	りこう			
31	一生けんめい			
32	温かい			
33	活発			
34	感じがよい			
35	感情的			
36	器用			
37	強がり			
38	行動力のある			
39	根気強い			
40	才能がある			
41	思いやりのある			
42	心やさしい			
43	心配しょう			
44	親切			
45	生意気			
46	注意深い			
47	堂々とした			
48	熱意のある			
49	熱心			
50	評価が高い			
51	品がいい			
52	負けずぎらい			
53	用心深い			
54	陽気			
55	冷静			

結果を見た感想

表 4　アンケートの整理と構成の検討用ワークシート



4 年生で 80％の児童が理解している語句であれば 6 年生でも相応の児童が理解できると予測し，授業では共通のものを用いた。活動は，「人物を表す言葉」アンケートを用いて，3 名程度の友達と交流しながら「聞き手である自分」に該当する語句を 5 個程度選択した。

3-3.　活動 4 アンケートの整理と構成の検討

活動 4 は，Microsoft Power Point を使用して，活動内容を可視化しながら説明した（表 4）。不明点があれば，個別に対応した。ワーク 1 として，活動 3 で取り組んだ「人物を表す言葉」アンケートで友達から得られた自分に対する評価を整理した。ワーク 2 は，自分が自分のことをどう思うかということを記入した。ワーク 3 は，「構成の検討」を行った。構成は，例として「はじめ・中 1・中 2・まとめ」を示した。「はじめ」には自分がどんな人物か一言で書き表す，「中 1」には他者評価の結果から自己について判断したことを書き表す，「中 2」には自分自身が自己をどのように思っているのか書き表す，「まとめ」には「中 1」「中 2」から考えたことを書き表すとよいことを口頭で伝えるとともに，自己を書くという学習への抵抗を軽減するために文例を示した。

4.　結果と分析

4-1.　性格語彙の全体的な使用実態

分析対象としては，筆者が回収できた児童の自己記述とする。したがって，4 年生は 77 名，6 年生は 98 名の自己記述が対象となる。表 5 には，児童の自己記述における「人物を表す言葉」アンケート内の 55 語の使用実態と事前調査の理解度を示した。

4 年生と 6 年生が自己記述で使用した性格語彙全体における語句の種類について，有意水準 5％の両側検定の t 検定の結果，$t(114)=0.34$，$p=.74$ となり，有意な差は見られなかった。その上で，語句の種類全体の傾向性について結果を述べる。

まず，4 年生と 6 年生を合計すると，「人物を表す言葉」55 語を延べ 315 回使用して記述していることになる。1 語当たりを平均すると，約 5.7 回の使用となる。しかし，使用された上位 3 語「やさしい」，「活発」，「負けずぎらい」が 20 回を超えているのに対して，1 回も使用されなかった言葉が 9 語あったという実態が示しているように，使用語彙に関しては偏りがある。

次に，使用語彙に関して偏りがある実態を踏まえて，どのような傾向があるかを分析する。第 1 に，

表 5 「人物を表す言葉」の使用実態と理解度

番号	順位	配当	語	4年	6年	計	理解度
1	1	2下	やさしい	19	6	25	97.0
2	2	3上	活発	6	17	23	87.9
3	3	3上	負けずぎらい	12	9	21	97.0
4	4	3上	陽気	6	13	19	84.9
5	5	3上	がんばり屋	10	7	17	87.9
6	6	3下	うっかり	4	12	16	94.0
7	7	2下	しっかりもの	9	2	11	93.9
8	7	6	感情的	1	10	11	84.8
9	9	2下	こわがり	5	5	10	94.0
10	9	2下	おだやか	2	8	10	93.9
11	11	3上	まじめ	2	7	9	93.9
12	11	4下	のんき	4	5	9	93.9
13	11	4下	器用	3	6	9	84.9
14	14	2下	親切	2	6	8	93.9
15	14	3上	のんびり	4	4	8	93.9
16	14	3上	おとなしい	4	4	8	97.0
17	17	3下	おくびょう	2	5	7	90.9
18	17	3下	一生けんめい	4	3	7	97.0
19	19	2下	思いやりのある	5	1	6	97.0
20	19	3上	おこりっぽい	4	2	6	94.0
21	19	4下	行動力のある	0	6	6	87.9
22	19	4下	強がり	2	4	6	91.0
23	19	5	才能がある	4	2	6	93.9
24	24	4上	たのもしい	4	1	5	94.0
25	24	4上	いいかげん	3	2	5	94.0
26	24	4上	おさない	2	3	5	90.9
27	24	4下	生意気	4	1	5	94.0
28	28	5	堂々とした	1	3	4	94.0
29	28	5	心配しょう	2	2	4	90.9
30	28	5	せっかち	3	1	4	84.9
31	31	3下	すなお	1	2	3	97.0
32	31	3下	心やさしい	2	1	3	93.9
33	31	5	がんこ	3	0	3	84.8
34	34	4上	ゆうかん	2	0	2	93.9
35	34	5	冷静	0	2	2	90.9
36	34	5	しんちょう	0	2	2	93.9
37	37	3下	りこう	0	1	1	81.8
38	37	3下	感じがよい	0	1	1	75.7
39	37	4上	熱心	0	1	1	87.9
40	37	4下	根気強い	1	0	1	78.8
41	37	4下	ずうずうしい	1	0	1	84.9
42	37	5	いさぎよい	0	1	1	60.6
43	37	6	熱意のある	1	0	1	84.8
44	37	6	まっすぐ	0	1	1	97.0
45	37	6	もの静か	0	1	1	81.9
46	37	6	するどい	0	1	1	94.0
47	47	2	がまん強い	0	0	0	87.9
48	47	3下	いばる	0	0	0	97.0
49	47	3下	注意深い	0	0	0	96.9
50	47	4上	あっさり	0	0	0	91.0
51	47	4上	さっぱり	0	0	0	89.8
52	47	4下	用心深い	0	0	0	81.9
53	47	5	品がよい	0	0	0	81.8
54	47	5	評価が高い	0	0	0	96.9
55	47	6	温かい	0	0	0	96.9
「人物を表す言葉」合計				144	171	315	

配当学年に着目する。第 2 に，事前の理解度に着目する。配当学年とは何年生の教科書の巻末に「人物を表す言葉」として掲載されているかということである。配当学年に着目する理由は，配当された学年で何らかの指導があったと予想し，「使いやすい」ということがあるのではないかと考えたからである。事前の理解度とは，3-2 で述べた 4 年生 33 名を対象にした調査の結果である。アンケートには基本的には 80％以上の理解度を示した語を採用したが，3 語「感じがよい」「根気強い」「いさぎよい」のみ，筆者の集計誤りによってアンケートの 55 語に含まれた。事前の理解度に着目する理由は，配当学年の理由と類似するが，語句の意味を理解していると自己の性格を裏付ける出来事と適合しやすいと考えられるからである。

これら 2 点については，使用回数の中央値で「よく使用される語」と「あまり使用がない・使用がない語」というように分類する。中央値は「4 回」であったため，「堂々とした」「心配しょう」「せっかち」（いずれも 5 年生配当）は含めないこととする。したがって，「よく使用される語句」は，5 回以上使用された 27 語，「あまり使用がない・使用がない語句」は 25 語，合計 52 語を対象とした。

表 6　配当学年の使用実態

配当学年	よく使用される語句			あまり使用がない・使用がない語句				
	語	%	期待値	語	%	期待値	合計	%
2下	6	11.5	3.63	1	1.9	3.37	7	13.5
3上	8	15.4	4.15	0	0.0	3.85	8	15.4
3下	3	5.8	4.67	6	11.5	4.33	9	17.3
4上	3	5.8	3.63	4	7.7	3.37	7	13.5
4下	5	9.6	4.15	3	5.8	3.85	8	15.4
5	1	1.9	3.63	6	11.5	3.37	7	13.5
6	1	1.9	3.12	5	9.6	2.88	6	11.5
	27	51.9	27.00	25	48.1	25.00	52	100.0

配当学年の使用実態について，表 6 に示した。この結果を有意水準 5％の両側検定のカイ二乗検定を行うと，$\chi^2(6)=20.05$，$p=0.007$ となり，有意差が認められた。つまり，「よく使用される語句」と「あまり使用がない・使用がない語句」は配当学年による使用実態に差異があるといえる。

さらに，児童の自己記述には，「人物を表す言葉」以外からの性格語彙が使用されていた（表 7）。「人物を表す言葉」以外の語句は 4 年生 18 回，6 年生 29 回の使用がある。この結果は，4 年生全体の使用語彙では 11.1％，6 年生全体の使用語彙では 14.5％

である。語句の種類としては 36 種類となる。ただし，注 2 で触れているが，2 年生上巻で掲載されている「明るい」（6 年生が使用），「元気」（6 年生が使用）「どりょく家」（4 年生が使用）が含まれる。本稿ではアンケートを対象にしているので「人を表す言葉」以外に分類する。さて，4 年生と 6 年生の両方で使用されている語は 3 種類である。「はずかしがり屋」，「おっちょこちょい」，「ゲーム好き・しすぎ」である。「ゲーム好き・しすぎ」は，「性格」ではなく「嗜好性」と捉えられる。他にも「生物好き」「読書好き」「勉強好き」「虫が苦手」がある。成家（2024）では，小学 3 年生を対象にして自己記述の内容を分析した結果，何も条件がない場合は約 20％が「好きなこと」に関する語句であった。そのため，小学生における自己の代表性として何が好きかということに言及する傾向があることは自然なことであり，今回の研究は，「人物を表す言葉」を活用したことで，「嗜好性」に関する記述は少ないという結果といえる。

表 7 「人物を表す語」以外の使用実態

番号	語	4年	%	6年	%
56	はずかしがり屋	4	2.5	1	0.5
57	おこりんぼう	2	1.2		
58	おっちょこちょい	1	0.6	1	0.5
59	おもしろい	1	0.6		
60	気が強い	1	0.6		
61	ゲーム好き・しすぎ	1	0.6	1	0.5
62	好奇心	1	0.6		
63	生物好き	1	0.6		
64	読書好き	1	0.6		
65	努力家	1	0.6		
66	ヒドイ人	1	0.6		
67	勉強好き	1	0.6		
68	虫が苦手	1	0.6		
69	悪口	1	0.6		
70	優柔不断			3	1.5
71	うるさい			2	1.0
72	めんどくさがり			2	1.0
73	明るい			1	0.5
74	飽きっぽい			1	0.5
75	アホ			1	0.5
76	あまのじゃく			1	0.5
77	おしゃべり			1	0.5
78	おっとり			1	0.5
79	気のよい			1	0.5
80	きりの悪い			1	0.5
81	決断力			1	0.5
82	元気			1	0.5
83	さばさばした			1	0.5
84	さみしがり屋			1	0.5
85	人生を楽しむ			1	0.5
86	性格が大きく変わる			1	0.5
87	ていねい			1	0.5
88	流されやすい			1	0.5
89	一人が好き			1	0.5
90	ふつう			1	0.5
91	マイペース			1	0.5
「人物を表す言葉」以外の合計		18	11.1	29	14.5

4-2. 「人物を表す言葉」の学年の使用実態

「人物を表す言葉」について，4 年生と 6 年生の使用実態を比較する。

実際に使用があった語については，4 年生が 36 語（65.4％），6 年生が 40 語（72.7％）であり大きな差異はなさそうである。しかし，4 年生と 6 年生の使用語彙の配当学年について，有意水準 5％の両側検定のカイ二乗検定を行うと，$\chi^2(6)=51.24$, $p=.02$ となり，有意差が認められた（表 8）。

表 8 4・6 年生の使用語彙配当学年の比較

配当学年	4年生 回数	%	期待値	6年生 回数	%	期待値	合計	%
2下	42	13.3	32.00	28	8.9	38.00	70	22.2
3上	48	15.2	50.74	63	20.0	60.26	111	35.2
3下	13	4.1	17.37	25	7.9	20.63	38	12.1
4上	11	3.5	8.23	7	2.2	9.77	18	5.7
4下	15	4.8	16.91	22	7.0	20.09	37	11.7
5	13	4.1	11.89	13	4.1	14.11	26	8.3
6	2	0.6	6.86	13	4.1	8.14	15	4.8
	144	45.7	144.00	171	54.3	171.00	315	100.0

5. 考察

5-1. 「人物を表す言葉」の使用実態

「人物を表す言葉」の使用実態について，配当学年の使用実態からは，「よく使用される語句」は「2 下」や「3 上」「3 下」が多く「5」や「6」は少ない。「あまり使用がない・使用がない語句」は，「2 下」「3 上」は少なく，「5」や「6」は多いという結論である。すなわち，2 年生や 3 年生で掲載されている「人物を表す言葉」は，身近で親しみやすい語句であることが推察される。ただし，これは理解語彙の問題か使用語彙の問題かということは明らかでない。なぜなら，自分を表す語句に適した言葉が偶然にも「2 下」や「3 上」に属していたという可能性もある。この問題は，本研究では明らかにならない。今後，個々の書き手へのインタビューなどを実施していくことを検討したい。

さて，「人物を表す言葉」の使用実態についてより詳細な分析を行うために，児童がどのような種類の性格語彙を使用したのか見ることにする。この分析については，性格特性ビッグファイブとの関連を考察する（表 9）。

表 9　性格特性ビッグファイブと関連した使用語彙の分類

	代表的な語句(＋)	語数	代表的な語句(－)	語数	「人物を表す言葉」(＋)	語数（合計数）	「人物を表す言葉」(－)	語数（合計数）	「人物を表す言葉」以外（＋）	語数（合計数）	「人物を表す言葉」以外（－）	語数（合計数）
E:外向性	明るい、活動的な、陽気な	35	内向的な、内気な、気弱な	46	活発、陽気、行動力のある、さっぱり	4(48)	こわがり、のんびり、おとなしい、おくびょう、もの静か	5(34)	おもしろい、明るい、おしゃべり、元気	4(4)	はずかしがり屋、優柔不断、さみしがり屋	3(8)
A:協調性	純粋な、あたたかい、純朴な	64	無感動な、冷たい	2	やさしい、まじめ、親切、思いやりのある、心配しょう、すなお、心やさしい、根気強い、がまん強い、温かい	10(59)		0(0)		0(0)	めんどうくさがり	1(2)
C:勤勉性	きちんとした、常識のある、常識的な	14	ちゃらんぽらんな、のうてきな、のんきな	74	負けずぎらい、がんばり屋、しっかりもの、一生けんめい、しんちょう、熱心、注意深い、用心深い	8(59)	うっかり、のんき、いいかげん、おさない	4(35)	努力家、ていねい	2(2)	おっちょこちょい、うるさい、飽きっぽい、あまのじゃく、流されやすい	5(6)
N:情緒不安定性	気が長い、穏やかな、寛大な	10	怒りっぽい、かりかりする、気が短い	90	おだやか、あっさり	2(10)	感情的、おこりっぽい、生意気、せっかち、がんこ	5(29)	おっとり	1(1)	おこりんぼう、気が強い、悪口、性格が大きく変わる	4(5)
O:開放性	頭の回転が速い、頭が切れる、論理的な	64	甘えのある	1	器用、強がり、才能がある、たのもしい、堂々とした、ゆうかん、冷静、りこう、いばる、品がよい	10(35)		0(0)	好奇心、	1(1)		0(0)
嗜好性、不明					感じがよい、ずうずうしい、いさぎよい、熱意のある、まっすぐ、するどい、評価が高い（＋、－が不明のため、ひと括りにする、「人を表す言葉」以外も同様）			7(6)	ゲーム好き・しすぎ、生物好き、読書好き、ヒドイ人、勉強好き、虫が苦手、アホ、気のよい、きりの悪い、決断力、さばさばした、人生を楽しむ、一人が好き、ふつう、マイペース			16(16)

※語句の下線なしは柏木ら(2005) の性格特性の語彙400語に提示されている語、下線ありは柏木らにはなく青木(1974) 個性表現辞典の分類表に基づいている語

5-2.　性格特性ビッグファイブと使用実態の関連

性格特性のビッグファイブについて，柏木ら（2005）を参考にする。柏木らは継続的に性格特性に関する語彙を研究しており，400 項目に及ぶ語をビッグファイブ（外向性，協調性，勤勉性，情緒不安定性，開放性の 5 つに，それぞれ正と負の特性がある）に分類しており，数多くの語が当てはまることと信用性があることで参考になると考える。外向性は（Extraversion：以下 E とする），協調性（Agreeableness：以下 A とする），勤勉性（Conscientiousness：以下 C とする），情緒不安定性（Neuroticism：以下 N とする），開放性（Openness：以下 O とする）として表記する。

分析の方法としては，「人物を表す言葉」と「人物を表す言葉」以外の全 91 語を対象として，性格特性のビッグファイブに当てはめて傾向を明らかにする。ビッグファイブは 5 分類されているが，中には複合的な因子をもつ語句もある。本稿においては，柏木ら（2005）の分類に合わせている。ただし，柏木らの分類の掲載されていない語については，約 2,400 語を 14 カテゴリーで分類した青木（1974）[3] を参考にして分類する。なお，5 分類に該当しない語は「嗜好性」及び「不明」とする。

児童の自己記述に使用された性格語彙 91 語のうち，柏木らの 400 語に当てはまった語は，32 語（35.2％）であった。このうち，「人物を表す言葉」は 25 語，「人物を表す言葉」以外は 7 語である。意外と当てはまる語が少ない。そのため，青木のカテゴリーによって分類する語が多かった。このことを鑑みると，教科書の「人物を表す言葉」については，例えば「活発」に類似する言葉として「活動的」という言葉があることや，ビッグファイブに倣って 5 分類して掲載するなどの工夫が必要であると考える。

さて，使用語彙の分類について考察する。第 1 に，「語数」について，「人物を表す言葉」と「人物を表す言葉」以外を合わせた数で述べていく。外向性は 16 語（正 8 語，負 8 語），協調性は 11 語（正 10 語，負 1 語），勤勉性は 19 語（正 10 語，負 9 語），情緒不安定性は 12 語（正 3 語，負 9 語），開放性は 11 語（正 11 語，負 0 語）であった。この結果より，性格特性のビッグファイブと使用語彙の関連については，いずれの特性にも一定の使用が認められるといえる。

佐久間・遠藤・無藤（2000）は，5 歳児と小学 2 年生の児童に対して，自己評価・自己定義・自己の関心についての質問からなる自己理解インタビューを実施した。佐久間らの研究では，協調性に関する

言及が各学年で多く見られ，年齢の増加に伴い，勤勉性や能力への言及が増加することを論じている。本研究においては，4 学年と 6 学年という発達段階から見ても，勤勉性に関する語彙が多いことは同様な結果といえる。

5-3. 4 年生と 6 年生の使用実態の比較

それでは，4 年生と 6 年生の使用実態を比較する（表 10）。比較するのは，使用回数が 5 回以上の語句で，回数，配当学年，性格特性である。使用回数が 5 回以上の語句に焦点を絞って比較するのは，先述したように 4 年生と 6 年生の回数と配当学年における使用実態に有意差が認められたためである。さらに，佐久間らの研究結果で，自己理解についての発達段階の差異が現れていることを検証するためである。

表 10　4 年生と 6 年生の 5 語以上の使用語彙の比較

4年生の使用語彙					6年生の使用語彙				
順位	語句	回数	配当	特性	順位	語句	回数	配当	特性
1	やさしい	19	2下	A+	1	活発	17	3上	E+
2	負けずぎらい	12	3上	C−	2	陽気	13	3上	E+
3	がんばり屋	10	3上	C+	3	うっかり	12	3下	C−
4	しっかりもの	9	2下	C+	4	感情的	10	6	N−
5	活発	6	3上	E+	5	負けずぎらい	9	3上	C−
5	陽気	6	3上	E+	6	おだやか	8	2下	N+
7	思いやりのある	5	2下	A+	7	がんばり屋	7	3上	C+
7	こわがり	5	2下	E−	7	まじめ	7	3上	A+
					9	器用	6	4下	O+
					9	行動力のある	6	4下	E+
					9	やさしい	6	2下	A+
					12	おくびょう	5	3下	E+
					12	こわがり	5	2下	E−
					12	のんき	5	4下	C−

比較対象とした使用回数が 5 回以上は，4 年生が 8 語，6 年生が 14 語であった。「人物を表す言葉」と「人物を表す言葉」以外を合わせると，4 年生と 6 年生での使用した語句の数は，4 年生が 40 語，6 年生が 65 語であり，6 年生の方が多様な語句を使用して自己記述をしているということになる。ただし，研究対象として 4 年生が 77 名で 6 年生が 98 名と 21 名の差が生じていることの影響もあると考える。しかし，5 回以上使用された語句の数が多種類あるということは，語彙の量が多い結果と考えられる。

そして，配当学年について，4 年生は「2 下」が 4 語,「3 上」が 4 語と下学年で学習する語が中心となっている。6 年生は「2 下」が 3 語，「3 上」が 5 語，「3 下」が 2 語，「4 下」が 3 語，「6」が 1 語と散らばりがある。6 年生の方が，多くの選択肢から自己記述に適切な語を使用しているという実態が見られる。

性格特性については，ビッグファイブの 5 分類に当てはめると，4 年生は，「E 外向性＋」が 2 語，「E 外向性－」が 1 語，「A 協調性＋」が 2 語，「C 勤勉性＋」が 2 語，「C 勤勉性－」が 1 語である。6 年生は，「E 外向性＋」が 4 語，「E 外向性－」が 1 語，「A 協調性＋」が 2 語，「C 勤勉性＋」が 1 語，「C 勤勉性－」が 3 語，「N 情緒不安定性＋」が 1 語，「N 情緒不安定性－」が 1 語,「O 開放性＋」が 1 語となっている。この結果からは，4 年生は 3 つの特性に分類できたことに対して，6 年生は 5 つの分類に当てはまっていたということがいえ，性格特性についても 4 年生と比較すると多様な自己分析をした自己記述が多かったといえる。加えて，負の側面に関しても，「E 外向性」,「C 勤勉性」,「N 情緒不安定性」に見られた。この結果は，6 年生の方が 4 年生と比較して，自己の負の側面を理解し，自己反省性が現れているといえる。また,「感情的」という語が多く使用されている実態から，思春期の時期に差し掛かっているため情緒が不安定であることを自覚できているということが分かる。

6. まとめ

本研究の目的は，第 1 に，自己記述に使用された性格語彙に関して，語句の種類を明らかにすることであった。

まず,「人物を表す言葉」において，4 年生と 6 年生での使用実態に差異はあるとしても，4 年生で最も多く使用された「やさしい」（19 回）は 6 年生（6 回）と合わせて 25 回の使用があったり，6 年生で最も多く使用された「活発」（17 回）は 4 年生（6 回）と合わせて 23 回の使用があったりする一方で,「温かい」や「がまん強い」など 0 回がある。考察 5-1 でも触れたが，理解語彙か使用語彙の問題かは明らかでないが，友達や自分に対して,「温かい」や「がまん強い」という認識がもてていないということも考えられる。そして，このような偏りがあるということは，人物の性格を理解したり表現したりするための語彙，つまり性格語彙を豊かにする学習指導が必要であるということが明らかになった。次に，性格特性のビッグファイブとの関連では，そもそも柏木らの分類に「人物を表す言葉」で該当する語が少なかったという結果がある。しかし，青木の 14 分類と合わせてビッグファイブに分類した結果，4 年生と 6 年生を合わせるとどのカテゴリーにも一定して当てはまることが分かった。しかし，正と負の因子で見ると，6 年生に負の因子をもつ語彙の使用が

多いことが分かり，発達段階の特徴が見られた。

以上のことから，本研究の第 2 の目的である自己を書くことの学習指導における性格語彙の学習の在り方を検討する。

中村（2018）は，語彙指導には「取り上げ」指導と「取り立て」指導の「二つの指導法に大別される」（p. 25）と述べる。「取り上げ」指導は，「一般的には，読んだり書いたりする場面で必要な語句について学ぶ」（p. 25）とあり，自己記述においては，自分の性格を書くために必要な語句について学ぶ必要があるため，「取り上げ」指導にも該当する。一方，「取り立て」指導は，「あるテーマに基づき集中的に学ぶ」（p. 25）とあり，まさに「あるテーマ」として，「性格」というテーマに焦点化している自己記述は，「取り上げ」指導と「取り立て」指導と書くことの指導という三者を学習過程において工夫することが重要となる。

さらに，中村は「取り上げ」指導が，「類義語や上位語・下位語など，語彙の関係について学ぶ」ことと「言葉をどのように考えていけばよいのか」という児童が自ら語彙を学び取る力をつける「語彙学習力」を高めるとして論じる。

児童に自分の性格特性を意識させるということを目指すのであれば，ビッグファイブのような特性を示して，類義語や上位語・下位語などの語彙の関係を学びながら，性格語彙を通して人物を考えるという学習に，自己記述の学習指導を検討していく必要があると考える。このような語彙学習力と書くことに関しては，萩中（2021，2022）が中学生を対象に研究しており，今後の参考にしていきたい。

注

1　「言葉の宝箱」の表記については，2 年生は「ことばのたからばこ」3 年生から 5 年生は「言葉のたから箱」，6 年生が「言葉の宝箱」となっていて，本稿では 6 年生に合わせている。なお，1 年生にはない。内容については，表 11 の通りである。

2　2 年生上巻にも，10 語提示されている。「明るい」「ゆうきのある」「前むき」「元気」「たくましい」「いじわる」「そそっかしい」「どりょく家」「ちえのある」「気が弱い」が該当する。今回の調査では，筆者が作成した Google　Form のアンケートに漏れていたため含んでいない。

3　青木（1974）では，「同じ性格内容を表現すると考えられた類似語群を 14 カテゴリーに分類した。カテゴリーは，1 礼儀正しさ，2 おだやかさ，3 社交性，4 親切，5 活動性，6 手堅さ，7 頭のよさ，8 身勝手，9 激し易さ，10 内気，11 冷たさ，12 根気のなさ，13 軽率，14 頭の悪さである。それぞれ 1 と 8，2 と 9，3 と 10，4 と 11，5 と 12，6 と 13，7 と 14 が正と負の関係である。

表 11　光村図書「言葉の宝箱」の内容

学年	内容
2上	じんぶつをあらわすことば、もののようすをあらわすことば、考え方をあらわすことば、気もちをあらわすことば
2下	じんぶつをあらわすことば、もののようすをあらわすことば、考え方をあらわすことば、気もちをあらわすことば
3上	人物を表す言葉、物や事がらの様子を表す言葉、考え方を表す言葉、気持ちを表す言葉
3下	人物を表す言葉、物や事がらの様子を表す言葉、考え方を表す言葉、気持ちを表す言葉
4上	人物を表す言葉、物や事がらの様子を表す言葉、考え方を表す言葉、気持ちを表す言葉
4下	人物を表す言葉、物や事がらの様子を表す言葉、考え方を表す言葉、気持ちを表す言葉
5	人物を表す言葉、事物を表す言葉、考え方を表す言葉、心情を表す言葉
6	人物を表す言葉、事物を表す言葉、考え方を表す言葉、心情を表す言葉

引用・参考文献

青木孝悦（1971）「性格表現用語の心理―辞書的研究―455 語の選択，分類および望ましさの評定―」日本心理学会『心理学研究』42，1，1-13

青木孝悦（1974）『個性表現辞典―人柄をとらえる技術と言葉』ダイヤモンド社，27，107-190

安達隆一（2018）「語彙〈1〉」，田近洵一・井上尚美・中村和弘編『国語教育指導用語辞典第五版』教育出版，22

井上博文（2018）「対人評価語彙・性向語彙の諸相―小学校国語科教科書の中の対人評価語彙の傾向性―」，全国大学国語教育学会『国語科教育』，84，17-21

大内敏光（2019）「学習コミュニケーションによる語彙拡充」，日本国語教育学会『月刊国語教育研究』567，東洋館出版社，1

柏木繁男・和田さゆり・青木孝悦（1993）「性格特性の BIG　FIVE と日本語版 ACL 項目の斜交因子基本パターン」日本心理学会『心理学研究』，64，2，153-159

柏木繁男・辻平治郎・藤島寛・山田尚子（2005）「性格特性の語彙的研究 LEX400 のビツグフアイブ的評価」日本心理学会『心理学研究』，76，4，368-374
佐久間（保崎）路子・遠藤利彦・無藤隆「幼児期・児童期における自己理解の発―達内容的側面と評価的側面に着目して―」『発達心理学研究』，11，3，176-187
鈴木一史（2020，初出 2019）『国語教師のための語彙指導入門』明治図書，90-93
谷口廣保（1982）「作文指導における言語事項の指導」，井上敏夫・倉澤栄吉・滑川道夫編『新作文指導事典』第一法規出版，352-353
中村和弘（2018）「語彙〈2〉」，田近洵一・井上尚美・中村和弘編『国語教育指導用語辞典第五版』教育出版，25
成家雅史（2024）「国語科教育内容と自己説明文を書くことに関する一考察―小学 3 年生を対象にした実践を分析して―」相模女子大学子ども教育学会紀要『子ども教育研究』16，27-36
萩中奈穂美（2021）「「語彙学習力」育成のための実践的研究―表現学習における語彙指導の意義と方法―」，全国大学国語教育学会『国語科教育』，89，12-20
萩中奈穂美（2022）「語彙学習力を育成する学習指導過程の開発」，全国大学国語教育学会『国語科教育』，92，50-58
文部科学省『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説国語編』東洋館出版社

付記

本研究は，相模女子大学ヒトを対象とする研究に関する倫理委員会の承認を得ている（受理番号：23022 号）。

本稿は，2024 年度相模女子大学特定研究助成費（A）「国語科「自己説明文」を書くこととキャリア教育の接合―自己形成に働きかける教育実践の開発を目指して」の助成を受けて，その研究成果の一部としてまとめたものである。

謝辞

研究に協力をいただいた A 小学校の 2 名の教諭と学級を貸してくださった先生方，児童の皆さんに心からお礼を申し上げます。